（様式１）

県立水海道第二高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1） 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
（2） 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
（3） 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

(1) 豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った生徒を育成する
(2) 伝統を継承しながらも柔軟に社会の変化に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる生徒を育成する
(3) 普通科・商業科・家政科が切磋琢磨し合い、それぞれの特長を高めて社会に貢献できる生徒を育成する
(4) 家庭や地域社会等と連携を深め、協働して持続可能な共生社会の実現を目指そうとする生徒を育成する

各学校で定める目標と育成する資質・能力

・地域社会で活躍できるための人間性や道徳心
　将来、地域社会で活躍できるための知識や技能を身に付け、様々な局面でも臨機応変に対応できる能力
・自己の将来に関わる問題についての問いを見出す能力
　地域や現代社会の諸問題などの解決に向けて他人と協働し調査する力や発表する力
・地域に貢献しようとする態度の育成
　地域の方と地域が抱える問題点を共有し、よりよい地域社会実現にむけ社会に参画する積極性や人間力

総合的な探究の時間の学習評価

・探究課題の結果だけではなく、過程をポートフォリオにより評価する。
・できるだけ授業担当者会議を開催し、各グループの進捗状況を確認し、前回からの進歩を評価する。
・プリントや話し合い活動の内容、レポート、記録用紙など全てファイルに綴じポートフォリオにすることにより、その生徒に応じた進歩を見逃さないよう注意する。生徒一人ひとりの毎時間ごとの振り返りを大事にする。
・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つをそれぞれ複数の項目に分け、評価を行う。

生徒の実態

・落ち着いた生徒が多い。
・与えられたことに素直に取り組むことができる。
・指示待ちの傾向があるため、主体的に行動できる姿勢が望まれる。
・将来の具体的な職業像を捉えきれておらず、進路決定の際に不安を感じることがある。
・アルバイトをする生徒は多いが、女子ハンドボール部をはじめ部活動も活発である。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・グループ活動に消極的な生徒には声かけや役割をあたえるよう、グループの生徒へアドバイスをする。
・探究テーマに沿って、クラスの枠を超えた活動ができる体制をとる。また、活動状況の遅れがちな生徒には個別に声かけをする。

目指す生徒の姿

・主体的に考え行動できる生徒
・様々な物事に対して積極的に臨む姿勢
・地域の人や地域の関係機関などに積極的に関わりを持ち、問題意識を持ちながら解決策を考えたり、様々な人の立場を考えたりすることができる生徒
・現代社会の諸問題を知り、考察をするとともに、自己の将来像に結び付けることができる生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

・１学年「探究の基礎（ICT スキル）とグループ探究」
　(1) 動画教材の視聴・話し合い・調べ学習（内容を分析・理解する力、行動力、協調性）
　(2) 課題の設定（問いを見いだす力、思考力、判断力、行動力）
　(3) 情報収集（人間性、洞察力、観察力）
　(4) 整理分析・表現（協働性、表現力、プレゼンテーション能力）

・２学年「グループ探究」
　(1) 課題の設定（問いを見いだす力、思考力、判断力、行動力）
　(2) 情報収集（洞察力、観察力、リーダーシップ、社会参画）
　(3) 整理分析・課題の再設定（分析力、協調性、協働性）
　(4) 表現（表現力、プレゼンテーション能力）

・３学年「個人探究・進路探究」
　(1) 課題の再設定（問いを見いだす力、思考力、判断力、行動力）
　(2) 情報収集（洞察力、観察力、社会参画）
　(3) 整理分析・課題の再設定（分析力、将来展望）
　(4) 表現（表現力、プレゼンテーション能力）

学習活動、指導方法等

１学年は全学科（家政科、商業科、普通科）で実施する。年度初めにガイダンスを実施し、目標を明確にした上で、３年間を見据えた活動を行う。前半は探究の基礎を中心に学び、ICT スキルの習得などを目標にする。フォームによるアンケート実施やスライドによる共同編集、サイト掲載による資料の共有などが今後の探究活動において有用であると考える。後半には、生徒の興味・関心のある分野ごとにグループを編成し、学年の教員を担当者として 12 教室に分けて少人数で探究活動を行うことを目標とする。また、ICT を活用して資料等を作成し、年度末に校内発表を行う。

２・３学年は普通科で実施する。昨年度からの継続性も考慮して目標を設定し、探究活動を行う。年度初めのガイダンスにおいて、探究の手順・方法を再確認し、生徒がそれぞれ探究テーマを立てて課題を設定する。分野に応じてグループを編成、または個人で探究活動を行う。情報収集では、質問事項など事前準備をしっかりとし、できる限り地域などでのインタビューなどを行うようにする。学年の教員がメインで担当するが、必要があれば教科担当の教員にも対応を依頼する。年度末に校内発表を行い、生徒による相互評価をもとに振り返りを行う。３学年では、興味・感心のある分野だけでなく、自分の進路にむけて探究を進めてもよい。また、レポート作成を行い、３年間の集大成とする。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

・タブレットなどを用いて自己の意見を発信するための環境整備や、生徒同士による意見の交流などをするための活動場所の確保に努める。
・探究テーマに応じて、家庭や地域（医療福祉施設や常総市役所、青年会議所、NPO 法人など）との連携をはかる。
・学習企画部が中心となり全体のコーディネーター役を果たす。担当者は各学年の担任、副担任をメインとするが、基本的に全教職員が個人やグループの活動（アンケートやインタビューなど）に対応する。
・学習企画部が地域の企業や大学・研究機関などと連携して、生徒がフィールドワークを行うための環境を整える。また、講演会などを企画し、生徒の視野を広げるための機会を設ける。